



第1回SDGs推進円卓会議 提出資料  
稲場 雅紀 委員  
黒田かをり 委員  
大西 連 委員

# 「SDGs実施指針」に対する 市民社会の意見（要旨）

「SDGs市民社会ネットワーク」は、以下の二つの方法により、SDGs実施指針に対して広く意見募集を実施しました。

◆ **SDGs市民社会ネットワーク参加団体からの意見募集**

8月12日～25日の期間、参加団体に意見集約のためのアンケートを実施。

◆ **一般向けのウェブ・アンケートの実施（インターネットを通じて）**

8月20日～9月3日の期間、上記ネットワーク参加団体のメンバーなども含む一般向けに、インターネットを通じて広くアンケートを実施。

本資料は、上記二つの方法により集められた個別意見の要旨をとりまとめたものです。アンケート個票および分野ごとの取りまとめについては、各省庁担当部署に別途提出させていただきます。

# SDGs = 「我々の世界を『変革』する」 なぜ変革が必要か、分析・明示する必要



世界も日本も、「持続可能性」において大きな問題を抱えている  
世界にも日本にも、「取り残され」ている人々がいる。



率直に認め、「なぜか」を分析し、正面から取り組むことから、全ては始まる。

## 環境の 持続 不可能性

- 「地球の限界」(Planetary Boundaries)を超える経済活動
- 生物多様性・遺伝的多様性の損失
- 気候変動、災害の頻発とそれへの備えの不十分さ

密接不可分

- 貧困と圧倒的な格差、「格差の存在」への認識の拡大
- 包摂性の欠如(ジェンダー・セクシュアリティ、世代、障害、国籍、人種、民族、地域)
- 暴力、紛争、差別の存在

## 社会の 持続 不可能性

## 経済の 持続不可能性

- 日本経済における持続不可能性は、少子高齢化と労働力の減少、過疎化などの形で認識されているが、それがすべてではない。
- 環境と社会の持続不可能性が、経済の持続不可能性に帰結している。
- 目指すべき社会は、「環境・社会の持続不可能性」が克服された社会。

「環境・社会の持続不能」をどう克服するかが  
「ビジョン」として示されるべき。

優先  
課題

イノベーションに富んだ「横串」を刺し  
「分野別縦割り」から統合、包摂、普遍の方へ



人間の  
安全保障

社会的公正

「ひと」とコミュニティに焦点を当て、誰一人取り残さない

人権

全ての人々が人権を有する政府・企業・NGOを含む、あらゆる主体はそれを侵害してはならない。人権を推進するための取り組み。

当事者主権

多様性の中からイノベーションは生まれる。ジェンダー平等と共同参画、包摂性の確保、共生・参画社会と多様性の確保のための取り組み。

将来世代に  
地球を引き継ぐ

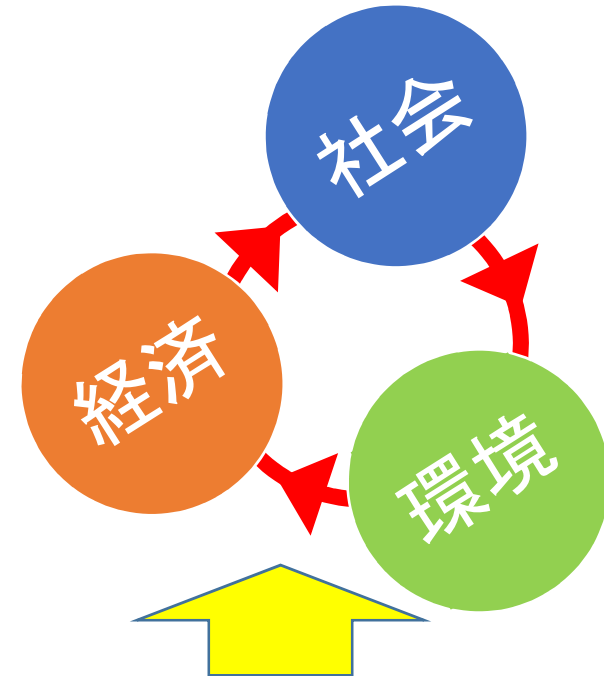
環境的適正

現在及び将来世代の人類が依存している地球環境を守る

環境  
保全

- 人間の社会経済活動が「地球の限界」を超えないための取り組み
- 環境的適正の三原則と生物多様性保全の確保による自然と人間との共生のための取り組み

「持続可能な開発の三側面」にどう横串を刺し、「分野別縦割り」から脱却できるかが＜指針＞成功の鍵。



社会的公正 ⇔ 人間の安全保障  
環境的適正 ⇔ 地球環境保全

## 具体的 施策

データ革命⇒根拠に基づいた施策の実施  
決めたことをやる⇒評価⇒改善（PDCAサイクル）



JAPAN CIVIL SOCIETY  
NETWORK ON  
**SDGs**  
SDGs 市民社会ネットワーク

